

テスト設計コンテスト OPEN クラス – アピールシート

※全体でA4縦 1 ページに収まるように記述してください。

地域名

新潟

チーム ID

S260703001

チーム名

雪国テスト職人

チーム紹介

私たちのチームは、新潟が大好きな日本人メンバー1名と韓国メンバー1名で構成されたチームです。異なる文化的背景や価値観を活かしながら、互いの強みを補完し合い、柔軟かつ論理的なテスト設計を実現しました。

コンセプト

妥協しない、こだわりを持つ職人の姿勢で、だんだん動物園が持続可能になることを目標としています。そのため、一貫性があるテスト方針と加えて補助金申請の資料作成に力を入れたいと思いました。また、テスト実施者がテストの流れ、テストの対象、テストの内容を把握しやすくするために工夫しております。

工夫点

テスト要求分析から設計・評価・運用支援まで、各工程を順序立てて進めることで、一貫性と品質を両立したテスト設計プロセスを構築し、持続可能な運営への貢献を実現しました。

1. テスト要求分析

テストケース設計に先立ち、依頼書と開発要求の整合性を確認することで、感覚的な判断ではなく、本当に必要なテストのみを抽出しました。

ステークホルダー図を作成して関係者の役割と関係性を明確化し、テスト観点の漏れを防止しました。

さらに、ISO/IEC 25010 の品質特性に基づいて観点を整理することで、多面的な品質評価を可能にし、テスト設計の完成度を高めました。

2. テストプロセスの視覚化

要求分析完了後、プロジェクト全体の流れを俯瞰できる全体図を作成しました。

これにより、関係者の間で作業の方向性を共有し、一貫性のあるテスト設計を推進しました。

チーム全体が同じ目標に向かって効率的に作業を進めることができました。

3. リグレッションテストを重視したテスト設計

前回バージョンとの違いを明確にするために変更点の洗い出しを行い、追加・修正箇所を特定しました。

そこからリグレッションテストの対象範囲を設定し、既存機能への影響がないことを確認できすることで、効率的かつ網羅的なテスト設計を実現しました。

4. 補助金申請資料の作成

持続可能な動物園運営の実現に向け、補助金申請に必要な資料を別途作成しました。

補助金申請に必要な書類は、通常動物園側で作成されるものですが、私たちはその作業負担を軽減するために、別途資料を準備する方針を取りました。

これにより、申請に必要な情報を効率的に整理し、動物園側の業務負担を減らすことが可能になります。

5. ユーザビリティテストの実施

今回の開発では、「密回避」を重要な目標の一つとして掲げました。

これを達成するために、私たちはシステムの内部テストだけでなく、実際に動物園を利用されるお客様からのフィードバックを得ることが不可欠だと考えました。

得られたフィードバックをもとに、次回バージョンへの改善提案を行うとともに、補助金申請においても密回避の成果を示す客観的なエビデンスとして活用しています。

このユーザビリティテストは、単なる品質評価ではなく、持続可能な運営という長期的な目標達成に向けた重要な素材として位置づけています。